

第3節 「社区」画定後の都市居民委員会と「移民」の都市定着
おわりに

第六章 移動と「移民」女性の社会的地位の変容
はじめに
第1節 中国国内における「移民」女性の現状分析
第2節 中国国内における「移民」女性の社会的地位
おわりに

第七章 中国都市における多層構造の形成と「異質共存」空間の生成—本研究の総括として—
第1節 「移民」の多層構造の形成に関して
第2節 都市における多層構造の形成と「異質共存」空間の生成
第3節 今後の課題

参考・引用文献

1970年代末に採用された改革開放政策の結果、中国では農村から都市への「移民」が著しく増大しているが、本論文は、1990年代の農村から都市への「移民」の動向と都市での生活実態を、統計的調査、先行研究、筆者自身の5回におよぶ現地調査の結果を総合して検討した労作である。中国の都市社会、農村社会では「同質集住」原則が適用され、都市社会は同質性の極めて高い社会を構成してきた。しかし、農民の都市流入によって、都市社会が都市住民と「移民」によって構成される社会へと変貌するなかで、それぞれの住民の共存が必要となっていることを問題意識として、本論文は、筆者が新潟大学人文学部の卒業論文以来一貫して追究してきたテーマをいわば集大成したものである。

第一章においては、中国の都市への農民の移入に関する理論を整理し、この問題がたんに国内移動だけではなく、民族、言語などの異なる地方からの「移民」であることによって、国際労働力移動の理論も踏まえて行われるべきであることを指摘する。そして、上海市での現地調査においては、行政、地元住民、「移民」という当事者である三者に対する調査を行ったことを記す。

第二章では、中国内外でこれまでに公表されている「遷移人口」「流動人口」「暫住人口」に関する統計調査結果を整理し、「移民」の規模、移動の決定要因、移出元と移入地での「移民」の状況、年齢、性別、学歴、居住状況、職業などの概況を明らかにする。

第三章では、上海市公安局による1993年、97年、2000年の流動人口サンプル調査の結果によって、上海市の「移民」の特徴を明らかにし、その後、筆者自身が97年から2006年の間に5回にわたって行った聴き取り調査結果を検討し、90年代に上海に移入した「移民」の生活状況、移民に対する行政と地元住民の受け入れ態度、治安維持活動、都市居民委員会などの地域活動への「移民」の参加について明らかにした。

第四章では、北京市の「浙江村」や「新疆村」の「移民」と上海市に居住する「移民」の生活状況を比較して、都市における社会的ネットワークの形成・拡大が「移民」の生活に及ぼす影響と都市定着の実現過程において果たしている役割を明らかにする。さらに形成された社会的ネットワークの社会的機能を検討する。その際に、都市移入の経緯、移出前・移入後の経済状況を背景に社会的ネットワークが形成され、それが「移民」の階層帰属に大きな影響を与えることを考察した。

第五章では、中国の都市基層大衆の自治組織である都市居民委員会が「移民」の日常生活に与える影響を明らかにした。都市居民委員会は行政的性格と自治的性格の二面性を有するが、それが、「移民」の日常生活の営み、社会的地位の向上、都市地元住民との往来の増大などの結節点として機能していることを考察した。

第六章においては、都市への農村住民の移入と「移民」女性の社会的地位の変化を考察し、

「移民」女性の社会的地位の上昇の実現の諸条件を明らかにする。

第七章では、以上各章の結果をまとめて、中国都市社会にこれまで存在している上中下の三層構造の各層に、都市に流入した「移民」が組み込まれているだけでなく、「移民」には新たに最底辺に形成された第四層に帰属するものが比較的多いことを示し、それらの各層の共生関係、「異質共存」の要因となる可能性を指摘して、本論文の結論とした。

このように、本論文は、上海市に移入した農村からの「移民」の社会構造と社会的ネットワークの変化を明らかにすることによって、中国の大都市において都市住民と流入した「移民」との間に形成されつつある「異質共存」空間について詳細に検討したものである。

審査結果の要旨

本論文は、改革開放政策が採用された後、1990年代の中国の大都市に顕著に見られる農村からの「移民」の流入について、理論的研究と各種統計の整理をまず行い、筆者自身が行った行政、地元都市住民、「移民」に対する現地調査によって補足して、90年代に都市に流入した「移民」の状況を検討し、社会的ネットワーク形成、都市地元住民との共存について明らかにしたものである。都市に移入した農民「移民」に関するこれまでの研究は、おもに経済学あるいは人口学の領域で行われ、地域間移動の実態や移動の規模などが明らかにされてきた。また、言語、民族、習慣、生活様式などが異なる新疆ウイグル人の都市での姿を描き出した研究があり、そのほか都市に流入した「移民」の年齢、性別、学歴構成、経済状況、生活実態などを検討した研究は数多い。本論文は、それらの先行研究を踏まえて、長期化する農村住民の都市滞在が、都市を共通の生活空間とする移入者同士また都市住民と移民の間の共生関係の生成、移入者の結節的機関としての都市組織と施設との連携など、都市生活の多様な側面について研究を深めた。さらに、上海市周縁区域、一般区域、中心区域で実施した聴き取り調査にもとづいて、(1)移民が差別と格差に直面しながら新しい生活基盤を作り上げる過程、(2)都市において生成拡大する「移民」の社会的ネットワークが都市社会での生活に果たしている役割、(3)都市の行政組織と自治組織を兼ねる都市居民委員会が都市住民と移民の社会的結節点の役割を果たしていることを明らかにした点が、本論文の特色の一つである。

さらに、中国での女性の社会的地位に関する研究は少なく、なかでも「移民」女性に関する研究は「移民」の女性の学歴、就業状況、生活実態など生活概況の把握を行ったものに限られているが、本論文では、数少ない先行研究を利用しながら、筆者自身が行った上海市での現地調査にもとづいて、女性「移民」の法的、経済的、政治的、社会的地位、教育的地位、家庭内での地位という5側面について検討を行い、都市への移住決定の際の自発性が、上海市に移入した後の社会的地位、経済的地位、家庭内での地位、教育的地位などの向上に大きな影響を与えていることを明らかにした。この点が本論文の第二の特色である。

本論文の第三の特色は、移入者人口の増加にともなう就業状況と所得の多様化にともなって、さまざまな社会的ネットワークが形成されていることを明らかにした点である。移住前と移住初期に存在する地縁・血縁関係による社会的ネットワークからは都市生活を営む際の必要な援助は得られるが、逆にこれは都市地元住民との関係作りには阻害要因となっており、このため職場、都市地元住民との間のネットワークが形成されてきている点を明らかにした。

本論の第四の成果は、都市に移入した「移民」の滞在長期化により、「移民」のなかに上・中・下層の三層構造が形成されていることを論じ、さらに、これまで都市地元住民社会に形成されていた三層構造に「移民」が帰属していることに加えて、農村からの「移民」が最下層である第四層目を形成していること、上部三層の都市住民と「移民」との間に「異質共存」が生じて来ていることを明らかにした点である。

以上述べてきたように、本論文は、主に上海市に流入した「移民」について、統計調査、先行研究、筆者自身の現地調査を総合して、1990年代の「移民」の経済状況、社会構造、社会的ネットワークの変化を明らかにしたものであり、今後の、中国都市への農村からの「移民」研究において参照されるべき論文となろう。

筆者自身の調査した「移民」の事例を一般化、理論化する際に、事例数がやや少ないことが難点であるが、これは個人による現地調査の限界であり、本論文全体の価値はこれによって低まるものではない。

これまで述べてきた評価にもとづいて、審査委員会は、本論文が博士号の学位請求論文として十分な内容を備えていると判断した。また、本論文は、主に上海市を中心とする中国大都市に農村から流入した「移民」についての社会学的研究として、今後の都市「移民」研究に新たな貢献を果たす専門性を備えており、博士（文学）が妥当であると判断した。